

●開催目的

都市の広場機能を確保しながら、適切な交通結節機能の配置を検討するにあたっては、各交通の乗り継ぎやダイヤ、運営方法などについて、各移動サービスを提供する事業者の方々の意見を踏まえる必要があるため、分科会（交通結節機能検討）を開催した。

●委員

- ・学識経験者 佐々木伸子，渡邊一成
- ・専門家 清水義次，西村浩
- ・事業者 西日本旅客鉄道株式会社，広島県タクシー協会東部支部
 広島県バス協会，福山市バス交通利用促進協議会，広島県東部観光推進協議会
 （敬称略）
- ・行政 福山市建設局

●第3回

- ・素案は広場空間を広く確保することと、東西方向の歩行者動線を改善する視点から検討した。
- ・バス事業者としては、素案の機能配置では転回場と待機場が離れているため、バスの運用が困難になると考えている。広場内で路線バスが転回できる配置計画を検討してもらいたい。バスの利用客の乗車距離や乗場の分かりやすさ、乗り継ぎ時間にも課題がある。
- ・安全性から、乗降場の中には一般車が入らない方が良い。駅前広場の東側の交通処理が課題となる。
- ・転回場や待機場が離れていることが問題だ。バスターミナルであれば、バスの運用は容易になるだろう。
- ・広場内でバスが転回すると、縦軸の広場空間が分断されてしまう。縦軸と横軸の広場空間を生み出し、そこで商業振興を成立させながら、公共交通の利用者を増やしていくことが大事。
- ・福山駅旭町線に観光バスが配置されると、さんすてに近くなり、便利になる。
- ・将来のことをしっかりと考え、色々な可能性を消さずに整理してもらいたい。



●第4回

- ・素案への一定の評価がある一方で、駅前広場を縦断する道路が東西の空間を分断していることから、駅前広場外にバスターミナルを配置して、全面的に都市の広場機能を生かすべきという意見がある。バス事業者からも路線バスの運用方法を考慮してもらいたいという意見があったため、比較表を作成した。
- ・広場内で路線バスが転回できる配置計画を検討した結果、駅前広場の交差点をコンパクトにできず、地上での東西の回遊性が向上しない。広場内で転回をさせながら、駅前大通りを縮小した場合も同様に、交通処理上も望ましくない交差点形状となる。
- ・乗車距離の問題については方面別の乗場の配置を工夫する対策が考えられ、乗場の分かりやすさの問題については案内表示を工夫する対策が考えられる。
- ・公共交通の需要を増やす事を目標に、まず駅前に人を集める方法を考え、その中で公共交通を配置する方法を考えると良い。現状ではなく、先を見た議論が必要。
- ・素案ではまだ横断があることが課題。例えば、北口広場などを活用して、駅前広場の全面広場化とバスターミナル化の実証実験をしてみてはどうか。将来的に三次交通もセットでバスターミナルに配置することで交通結節機能が更に向上するだろう。
- ・実証実験をする際には、活用する組織を作る実験も同時に行うと良い。市民に参加してもらい、自分事として関わってもらえる事が大事になる。
- ・素案の配置計画を基本としながら、駅周辺の開発動向を含めて、全面広場化も視野に検討を進めていくことを基本方針案として示す。